
静観

猫目石

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

静観

【Nコード】

N0009S

【作者名】

猫目石

【あらすじ】

宿敵の奈落、その最期の場面、続いて起こった衝撃の事件。

(冥道に呑み込まれ消えたかごめ)

一連の出来事を殺生丸の視点でお贈りします。

奈落が滅していく。

涸れ井戸の上に浮かんでいるのは頭部のみ。

側に四魂の玉が浮かんでいる。

破魔の矢に射抜かれ、微かに音と光を放っている。

所有者と同じく『虫の息』と云った処か。

奈落が際限なく取り込んできた数知れぬ妖怪どもの体は爆碎牙が全て破壊した。

奴が頭部だけでも残っているのは四魂の玉の底知れぬ妖力のおかげだろう。

この殺生丸の爆碎牙を以^もつてしても破壊できなかった四魂の玉。

・・・怖るべき代物だな。

涸れ井戸の周囲を取り巻くのは犬夜叉達、そして、私とりん、邪見琥珀といった顔触れだ。

瀕死の奈落が口を開いた。

何を云うのかと思えば・・・。

四魂の玉に願を掛けただと？

それも己が死んだと同時に叶う願い？

かごめが夢幻の白夜に斬られた時に願った？

どのような願いにせよ、奈落のする事だ。

碌な物ではあるまい。

云い終わった途端、奈落は滅した。

跡形もなく消え失せたのだ。

予告通り、異変は起こった。

それも全く予期せぬ形で。

かごめの背後に出現した真円の冥道。

冥道に吸い込まれるように、かごめが消えた。

犬夜叉が必死に後を追いかけてようとした。

だが、冥道は虚空に消え失せてしまった。

仔狐妖怪の話によると、夢幻の白夜は冥道残月破の妖力を吸い取った刀で、かごめを斬ったらしい。

成る程、それで冥道が出現した訳か。

異変は、それだけでは収まらなかった。

驚いた事に、涸れ井戸までもが、かごめと同じように消失していたのだ。

まるで切り取ったかのように井戸とかごめの匂いが消えている。

本体と同様、忽然と消えたのだ。

残っているのは微かな残滓のみ。

それも風のひと吹きで消え去るような頼りなさだ。

奈落が滅したのを確かめようとしたのだろう。

法師が右手の風穴を確かめる。

風穴は消滅していた。

奈落は本当に滅したようだ。

だが、四魂の玉は何処に？

犬夜叉が鉄碎牙を黒く変化させた。

冥道残月破を撃つ積もりであろう。

かごめは冥道に消えたのだ。

冥道に入って追いかける以外、手は無かるう。

刃型の冥道が出現した。

そのまま冥道の中に入った犬夜叉。

犬夜叉を呑み込んで冥道は閉じた。

自分の女のことだ。

後は奴が自力で何とかするしかあるまい。

最早、この場に留まる必要は何処にもない。

りんを右手で抱き上げ空中に浮かぶ。

邪見に一声かけたら慌てて毛皮に飛びつきおった。

法師や女退治屋、琥珀が、声を張り上げ私を呼んだが無視を決め込む。

奴らと馴れ合う積もりなど毛頭ない。

そのまま、りんを抱いて、空中を飛び去った。

了

連作『決断？』来旨^{おいし}』に続く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0009s/>

静観

2011年7月9日04時58分発行